様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　 ６ 月 １５ 日現在

機関番号：２４４０３
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2015～2019
課題番号：１５Ｋ１１５１４

研究課題名（和文）ナラティヴ・アプローチによる看護師のキャリア形成支援実践者育成プログラムの開発

研究課題名（英文）Creation of a Career Development Support Practitioner Training Program for Nurses based on the Narrative Approach

研究代表者
紙野　雪香（今井雪香）（kamino, yukika）

大阪府立大学・看護学研究科・准教授

研究者番号：１０２９４２４０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究はナラティヴアプローチ（以下、NA）によるキャリア形成支援者育成プログラムの開発に取り組んだ。先駆的に行ってきた「NAによる中堅看護師キャリア形成プログラム」を平成29年度までに受講し、研究協力の同意が得られた看護師6名を対象として全5回のプログラム試案を実施した。データは、受講中に対象者が作成した資料と日誌、プログラム実施中に研究者がとったメモであった。プログラム試案の成果は個別に検討を行った。対象者は、NAの理論的背景を理解した上で自由に看護実践について語り合える場を各臨床単位になじむように創造した。それは、看護師個々の経験に基づくキャリア形成支援につながっていくことが示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　看護学領域では、ナラティヴアプローチへの関心が高いものの、実践方法に戸惑い、混乱が生じていることから、理論的背景を理解した実践者育成の具体を示したことは、実践上貢献できたと考える。また、臨床現場を懸命に生きる看護師に寄り添った対話を基本としたかかわりは、あらゆる医療現場で広く活用可能な基礎的な知見として寄与できる。看護継続教育に携わるすべての人々に有効な示唆を提供できる。
　本研究方法は、研究者もフィールドを構成する1人として、その関係性の中にある現実を分析するという新しい質的研究方法であった。実践の科学である看護学領域では今後発展し幅広く応用可能な方法である。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this research is to create a career development support practitioner training program using the narrative approach (NA) and to elucidate the results. Participants were six nurses who had attended the “Career Development Program for Proficient Nurses based on the Narrative Approach” during the 2017 Japanese financial year and had given their consent to participate in the research. The data included materials and diaries produced by the participants during the program, and notes taken by the researcher during the program. The results of the program proposals were reviewed individually.
Each clinical unit was created so that the participants, having understood the theoretical background of NA, were able to freely describe nursing practices. It was suggested that this would lead to career development support based on the individual experiences of the nurses. In addition, it was also revealed that the participants were transformed as collaborative practitioners.

研究分野：看護教育学

キーワード：ナラティヴアプローチ　看護教育　指導者育成　キャリア形成

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

研究代表者は､｢ナラティヴ･アプローチによる中堅看護師のキャリア形成プログラムの開発｣(平成 24－26 年度基盤研究(C), 研究代表者 紙野雪香)に取り組んできた。このプログラムは、ナラティヴが本質的に内包する共同性と他者性をダイナミックに捉えた「語る―きく」という方法論を基本としたかかわりによるキャリア形成支援である。少グループでの１年間のキャリア形成プログラム(3 時間/回/月)であり、主な内容は、ナラティヴの理論的背景を知る、ナラティヴの考え方をもとに“私”の看護実践を活写する、ナラティヴの世界観のなかで看護実践を「語る―きく」､“私の実践”を伝えることについて考える、である。

キャリア形成プログラムの参加者には明らかな変容が起きている。その成果を基に中堅看護師のキャリア形成の指針が今のところ 2 点見出されてきた。“私の看護実践”に意味が生まれそれを重視すること､“私らしい看護実践像”の言語化により肯定的自己意識をもって未来を志向することである。これらの変容は、プログラムの特徴である、自由に語り合う場（Anderson.H＆Goolishian.H.,1992）の設定、ナラティヴ的思考モード(Bruner J.,1986)による私の経験世界の記述によって起こっていた。ナラティヴアプローチの理論的背景を学び、その視点で自己の看護実践を捉え直すということは､患者を１人の“あなた”として関心を維持し､実践する“私”を取り戻すことを可能にした。そのことを通して“私の看護実践”に意味が生まれていた。言語化（語る、記述する）という作業は、実践をみえやすく、明快に、仕事の中核とするのに役立っていた。そして､“あなた”との間に起こった“私の考える看護実践”に自信をもち、自分を信じることができるという成果が現れ、将来のなりたい自分、実践したい看護について語るという現象が起こった。病院組織が求める役割や患者が求めるあるべき看護師像が増大し、過度な標準的「べき論」から自分を見失っていた看護師たちが肯定的自己意識をもって未来を志向し、私の将来像が立ち現れるとき、誰のものでもない“私のキャリア形成”が始まっていた。

以上の研究成果については、関連学会だけでなく、臨床現場に赴き公開シンポジウムを開催することで､｢ナラティヴアプローチによる中堅看護師のキャリア形成プログラム｣の臨床現場での応用可能性を検討している。どの会場も立ち見がでるほどの関心の高さで、集まった方々の反応からもプログラムの内容と成果については、臨床の課題にマッチしたものであるという手ごたえを感じている。一方で、「このプログラムを運営できる人が院内にいるだろうか・・」という意見を頂いている。残された課題の一つとして、これまでの研究の成果である「ナラティヴアプローチによるキャリア形成プログラム」をナラティヴ概念の理論的背景を理解した上で運営・実施し、各臨床単位になじむような自由に語れる場を創っていくことができる人の育成があげられる。この課題は、臨床からの意見に応答するものであり、これまでの成果をより実践的に発展させていくものである。

「ナラティヴアプローチによるキャリア形成プログラム」の特徴は、自由に語り合う場（Anderson＆ Goolishian,1992）の設定、ナラティヴ的思考モード(Bruner,1986)による私の経験世界をいきいきと描き出すことである。言語化（語る、記述する）という作業は、実践をみえやすく、明快に、仕事の中核とするのに役立つ。本研究では、ナラティヴアプローチを基盤とした語り合いの時空間を､プログラム受講者が所属する組織へと展開できることをめざす。そのことによって、水平の関係性のなかで自己の看護実践について語り合う組織の風土作りが可能となる。スピード化、効率化、成果主義へと傾斜する医療現場において、語り合う場時間や場所のゆとりが失われている。看護職者が大切している看護が埋もれやすくなっている状況のなか、ナラティヴアプローチの場が広がり維持されることは急務の課題である。

２．研究の目的

本研究では、看護師のキャリア形成支援者を育成するためのプログラムを開発する。したがって次の 2 点を目的とする。

１．ナラティヴアプローチによる看護師のキャリア形成支援実践者育成の具体的な内容と指針を明らかにする

２．ナラティヴアプローチによる看護師のキャリア形成支援実践者育成プログラムの成果と限界を明らかにする

ここでいう看護師のキャリア形成とは､“私の看護実践”に意味が生まれそれを重視することと､“私らしい看護実践像”の言語化により肯定的自己意識をもって未来を志向することである。

３．研究の方法

１）プログラムの目的と内容

プログラムの目的は、「ナラティヴアプローチによる中堅看護師のキャリア形成プログラム」を各臨床単位になじむ方法で実施し、看護実践について自由に語り合う時空間を創る看護職者を育成することである。

プログラムは、全５回（2～3 か月に１回)、１回 3 時間とし、以下の内容で実施した。

回	内　　容
1	ナラティヴアプローチの理論的背景(1)
2	ナラティヴアプローチの理論的背景(2)
3	各臨床単位で行う「ナラティヴアプローチによるキャリア形成プログラム」案の作成

4	各臨床単位でのプログラム実施の途中経過報告とこれからについて
5	各臨床単位でのプログラム実施の結果とまとめ

２）研究対象

先駆的に行っている「ナラティヴアプローチによる中堅看護師キャリア形成プログラム」を平成 29 年度までに受講した者で、研究参加の同意が得られた者 6 名であった。本研究で実施するプログラム試案の全日程に参加が可能であることを条件とした。

３）データ収集方法および収集内容

研究対象者に許可を得て、実施中のやりとりについてメモを取り、研究対象者がプログラム受講中に作成した資料等を保管した。またプログラム受講期間中、日常の勤務のなかでナラティヴアプローチについて想起することがあった場合には、想起された日時、場所、その出来事、そのときの気持ちについて日誌にメモしてもらった。

４）分析方法

プログラム試案の成果と課題について個別に検討した。成果とは、研究対象者がナラティヴアプローチの理論的背景を理解した上で、各臨床単位になじむように自由に看護実践について語れる場を創ることと、その過程における研究対象者の変容を含んだ。

研究協力者がプログラム受講中に作成した資料等、プログラム実施中に取ったメモ、ナラティヴアプローチに関する日誌について、ナラティヴが本質的に内包する共同性と他者性を参考に①関係性②文脈③生成された意味④変化プロセスに着目し解釈を行った。研究者もプログラム実施を構成する１人として、その関係性の中にある現実を分析する。日誌にメモされた内容は、出来事の内容だけでなく出来事の意味や感情が付随していることから（神谷, 2003)、特に④変化プロセスの解釈を行う補助的データとした。

５）分析結果の真実性の検討

研究の実施体制は、看護学研究者、ナラティヴアプローチに精通した臨床心理学研究者、継続教育実践者らで構成されている。各々が専門的知識を提供し、研究対象者にとっての意味や文脈を基盤とした研究対象者の真実について解釈を行った。

６）倫理的配慮

本研究は、大阪府立大学院看護学研究科研究倫理委員会の承認(30-26)を得た上で実施した。研究協力者に研究の目的・意義・方法、同意・参加の自由意志、同意・参加後であっても辞退可能であること、辞退しても不利益を被らないこと、プライバシーに関する配慮、データの匿名性の保持や保管に関することなどを説明し、同意を得て実施した。また研究結果を学会や専門誌等での発表および投稿することについて同意を得た。

４．研究成果

研究対象者は、ナラティヴアプローチの考え方を基盤とし、自由に看護実践について語り合える場を各臨床現場になじむように設定していた。その場は、看護師個々の経験に基づくキャリア形成支援につながっていた。

また研究対象者は、協働するナラティヴアプローチ実践者として変化していた。

研究対象者の設定した語り合える場について、臨床現場に与えた効果を具体的に明らかにしていくことを今後も継続的に取り組んでいくこととする。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計5件（うち査読付論文　0件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 紙野雪香	４．巻 42
２．論文標題 看護学実習現場における患者・学生・教員の関係性の構造とプロセス　ナラティヴアプローチによる記述（前編）	５．発行年 2017年
３．雑誌名 看護実践の科学	６．最初と最後の頁 58－69
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 紙野雪香	４．巻 42
２．論文標題 看護学実習現場における患者・学生・教員の関係性の構造とプロセス　ナラティヴアプローチによる記述（後編）	５．発行年 2017年
３．雑誌名 看護実践の科学	６．最初と最後の頁 65－76
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 紙野雪香	４．巻 27
２．論文標題 経験を意味づけるナラティヴアプローチ研修　看護管理者研修における「語る－聞く」場の創造	５．発行年 2017年
３．雑誌名 看護管理	６．最初と最後の頁 290-296
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 紙野雪香、福田敦子、高橋清子、森岡正芳	４．巻 29
２．論文標題 看護実践を語り合う時空間の創造	５．発行年 2019年
３．雑誌名 看護管理	６．最初と最後の頁 458-462
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 紙野雪香、福田敦子	４．巻 72
２．論文標題 看護師1人ひとりの進化につながるナラティヴアプローチ	５．発行年 2020年
３．雑誌名 看護	６．最初と最後の頁 78-81
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計5件（うち招待講演　1件／うち国際学会　2件）

１．発表者名 Yukika Kamino,Atsuko Fukuda, Sayako Takahashi, Masayoshi Morioka
２．発表標題 Visualization of Nursing Practice by Narrative Approach（１）yorisou
３．学会等名 5th China-Japan-Korea Academic Exchange Conference（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Atsuko Fukuda,Yukika Kamino, Sayako Takahashi, Masayoshi Morioka
２．発表標題 Visualization of Nursing Practice by Narrative Approach（２） Achievements of Narrative Practice
３．学会等名 5th China-Japan-Korea Academic Exchange Conference（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 紙野雪香
２．発表標題 看護実践の意味を見出すナラティヴプラクティス‐対話の力、生成と進化‐
３．学会等名 日本看護学会慢性期看護学術集会（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 富田昌代、紙野雪香、福田敦子、長谷川美佳
２．発表標題 看護管理者を育てるナラティヴアプローチ研修の取り組み
３．学会等名 第20回日本看護管理学会学術集会
４．発表年 2016年

１．発表者名 紙野雪香、福田敦子、高橋清子
２．発表標題 急性期看護における対話的時間の実態
３．学会等名 第27回日本医学看護学教育学会学術集会
４．発表年 2017年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

紙野雪香　ＷＥＢ　ＳＩＴＥ http://www.nursing.osakafu-u.ac.jp/~kamino/

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	森岡　正芳 (morioka masayoshi) (60166387)	立命館大学・総合心理学部・教授 (34315)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	福田　敦子 (fukuda atsuko) (80294239)	神戸大学・保健学研究科・講師 (14501)	
研究分担者	高橋　清子 (takahashi sayako) (90343251)	千里金蘭大学・看護学部・准教授 (34439)	